

令和 8 年度特別の教育課程の届出書

令和 7 年度特別の教育課程実施報告書



【 記 載 例 】



今年度の変更箇所は、特にありません。

また、引き続き注意が必要な箇所については、太字のみで表記していますので、御留意願います。

【昨年度の主な変更点について】

「障害」を「障がい」と表記します（県が新たに作成する公文書等において）。

【引き続き注意が必要なところ】

記載例（P13）原則として、交流学級で学ぶ時間は、週の授業時数の半分以上にならないように設定します。

第2 特別支援学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習の時数について

- また、「障害のある子供の教育支援の手引」にあるように、特別支援学級に在籍している児童生徒が、大半の時間を交流及び共同学習として通常の学級で学んでいる場合には、学びの場の変更を検討すべきであること。言い換えれば、特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安として特別支援学級において児童生徒の一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業を行うこと。

参考資料：令和 4 年 4 月 2 7 日付け 4 文科発第 3 7 5 号

「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について（通知）」

令和 7 年 1 2 月

中 南 教 育 事 務 所



目 次

1	特別支援学級における特別の教育課程の届出書（小・中学校）……	1
2	特別支援学級における特別の教育課程実施報告書（小・中学校）…	1 4
3	通級による指導に係る特別の教育課程の届出書（小・中学校）…	1 5
4	通級による指導終了報告書（小・中学校）……………	1 6

(特別支援学級用)

〇〇〇〇〇第〇〇〇号
令和〇〇年〇月〇〇日

〇〇〇 教育委員会教育長 殿

市町村教育委員会
の定める日

小
〇〇〇立〇〇〇 学校 校長 〇〇 〇〇 印
中 (公印省略)

特別支援学級における特別の教育課程の届出書

どちらでも可

本校の特別支援学級 〇〇〇学級 にかかる令和〇〇年度の教育課程を下記のとおり編成したので、お届けします。

当該学校で定めた名称を記入する。

記

1 学級の種別

〇〇〇〇〇

知的障がい、自閉症・情緒障がい、肢体不自由、弱視、難聴等、障がいの種別を記入する。

2 学級の在籍状況

愛護手帳(療育手帳)を有する場合、記入する。

【小学校記載例】

学年	1	2	3	4	5	6	備考
障がい種別							
知的障がい			1			1	運動障がい(3年) 言語障がい(6年) 愛護手帳B(6年)

【中学校記載例】

学年	1	2	3	備考
障がい種別				
自閉症スペクトラム障がい	1		1	言語障がい(1年) 学習障がい(3年)
注意欠如多動症			1	軽度知的障がい(3年)
計	1		2	

主たる障がい名を記入する。
各学年の人数を記入する。

備考欄には、重複障がいがある場合、その障がい名(学年)を記入する。
各市町村教育支援委員会等の資料に基づいて記載する。

3 学級の教育目標

学級の教育目標のみを記入する。
〔記載例〕なかよく、たすけあう子
さいごまで、がんばる子
すすんでうんどうする子

4 指導の重点及び教育課程編成の方針

(1) 指導の重点

学級における指導の重点及び教育課程の
編成の方針を簡潔に記載する。

(2) 教育課程編成の方針

小学校 記載例

各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えた例。検討の手順 で編成した場合。

5 年間授業時数

「検討の手順」で編成した場合は、斜線にする。

○小学校]

【記載例】

学年別等の時数		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
各教科等							
教科別の指導	遊びの指導						
	日常生活の指導						
	生活単元学習						
	生 活（特）						
	国 語			2 1 0			1 7 5
	社 会			7 0			1 0 5
	算 数			1 7 5			1 4 0
	理 科			9 0			1 0 5
	生 活						
	音 楽			6 0			5 0
特別活動	図画工作			6 0			5 0
	家 庭						5 5
	体 育			1 0 5			9 0
	外国語						7 0
	特別の教科 道徳			3 5			3 5
	外国語活動			3 5			
	総合的な学習の時間 （名称：○○○○○○）			7 0			7 0
	特別活動			3 5			3 5
	学級活動			3 5			3 5
	自立活動			3 5			3 5
合 計				9 8 0			1 0 1 5
備 考		・クラブ活動は、60分を単位時間として9回実施する。（6年）					

小学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）小学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

[〇〇〇立〇〇〇小学校]

【記載例】

各教科等		学年別等の時数	3年	4年	5年	6年
遊びの指導		日常生活の指導と生活 単元学習の時間の計 210 は、国 40、社 70、 理 90、算 10 を減じて 充てた時数。	1 0 5	生活単元学習の時 間 105 は、国 35、 算 35、家 35 を減じ て充てた時数。		1 0 5
日常生活の指導						
生活単元学習			1 0 5			1 0 5
教科別の指導	生 活（特）	生活（特）は、社会、理 科の内容を含んでおり、 単独もしくは合わせた指 導の中で実施する。この 記載例では合わせた指導 で行うので、 1 と記 し、その内容を備考欄に 記載する。	1	生活（特）は、社 会、理科、家庭の 内容を含んでいる が、この記載例で は、社会、理科の 時間を設定して行 う。この場合の生 活（特）では、社 会、理科の内容を 扱わないことにな る。		2
	国 語		1 9 5			1 3 5
	社 会					1 0 5
	算 数		1 4 0			1 3 0
	理 科					1 0 5
	生 活	特別支援学校の学習指 導要領を参考にして行 うので、社会、理科の 欄は、斜線にする。				
	音 楽		6 0		5 0	
	図画工作		6 0		5 0	
	家 庭					
	体 育		1 0 5		9 0	
	外国語					7 0
特別の教科 道徳		特別の教科 道徳の 時間を設定して行 うことを基本とする。	3 5			3 5
外国語活動			3 5			
総合的な学習の時間 （名称：〇〇〇〇〇〇）			7 0			7 0
特別活動	学級活動	自立活動の時間 35 は、国 10、算 25 から。なお、少な くとも 35 時間は 設定することが望 ましい。	3 5	自立活動の時間 35 は、国 5、算 10、 家 20 から。なお、 少なくとも 35 時間 は設定することが 望ましい。		3 5
自立活動			3 5			3 5
合 計			9 8 0			1 0 1 5
備 考		1：3年の生活（特）は、日常生活の指導及び生活単元学習と 合わせた指導の中で行う。 2：6年の生活（特）は、生活単元学習と合わせた指導の中で 行う。 ・クラブ活動は、60分を単位時間として9回実施する。（6年）				

小学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）小学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

6 教育課程の各教科等及びその概要

（１）各教科等

[〇〇〇立〇〇〇小学校]

【記載例】における各教科等の記載例

《３年生》

教育課程	指導内容の分類 (内容上の区分)		指導の形態 (指導上の区分)	
	生活(特)の内容は、合わせた指導において行うので、指導上の区分には記載しない。		日常生活の指導	各教科等を合わせた指導
			生活単元学習	
	各教科	生活(特)	教科別の指導	
		国語		
		算数		
		音楽		
		図画工作		
		体育		
	特別の教科 道徳		特別の教科 道徳	
	外国語活動		外国語活動	
総合的な学習の時間		総合的な学習の時間		
特別活動	学級活動	学級活動	特別活動	
自立活動		自立活動		

・学校行事、児童会活動は、交流学級の一員として参加する。

【各教科等を合わせた指導の関連教科・領域】

- ・日常生活の指導...生活(特)、国語
- ・生活単元学習...生活(特)、国語、算数

「各教科等を合わせた指導」について、関連する教科等を文章で記載する。

特別支援学校(知的障がい)の教科には、社会、理科、家庭、外国語は設定されていない。

合わせた指導の教科を記載する際には社会、理科、家庭、外国語は記載されないことになる。

小学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）小学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

【記載例】における各教科等の記載例

[〇〇〇立〇〇〇小学校]

《6年生》

教育課程	指導内容の分類 (内容上の区分)		指導の形態 (指導上の区分)	
	生活(特)の内容は、合わせた指導において行うので、指導上の区分には記載しない。		生活単元学習	各教科等を合わせた指導
	各教科	生活(特)	教科別の指導	
		国語		
		社会		
		算数		
		理科		
		音楽		
		図画工作		
		体育		
外国語				
特別の教科 道徳		特別の教科 道徳		
総合的な学習の時間		総合的な学習の時間		
特別活動	学級活動	学級活動	特別活動	
自立活動		自立活動		

・学校行事、児童会活動は、交流学級の一員として参加する。

【各教科等を合わせた指導の関連教科・領域】

・生活単元学習...生活（特）、国語、算数

「各教科等を合わせた指導」について、関連する教科等を文章で記載する。
 特別支援学校（知的障がい）の教科には、社会、理科、家庭、外国語は設定されていないが特別支援学級は教科として設定できる。この記載例では、社会、理科、外国語は当該学年又は下学年に替えて時間を設定しており、家庭は生活（特）に替えているので、合わせた指導の教科の記載欄には社会、理科、家庭、外国語は記載されないことになる。

小学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）小学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

（２）概要

【記載例】における記載例

《３年生》

交流学級で学習している場合でも、特別支援学級担任○○小学校]が主な学習内容を児童の実態に合わせて記載する。

学年別の主な 教育内容 各教科等		主な教育内容		・指導上の区分 ・留意事項
		3 年		
生活（特）		・自分の名前を言って自己紹介する。 ・友達や先生の名前を知り、あいさつをする。 ・道路の右側や歩道をきちんと歩く。 ・持ち物や道具を決められた場所に整頓しておく。 ・生き物を探したり植物の観察をしたりして遊ぶ。 ・係の仕事や花壇の作業をし、生活に役立てる。		日常生活の指導 生活単元学習
国 語		・絵本や簡単な紙芝居を見たり聞 内容を楽しむ。 ・見聞きしたことや経験したこと く。	特別支援学校の内 容を扱う場合は、 各段階を参考に文 章で記述する。	国語 日常生活の指導 生活単元学習
社 会				
算 数		・10を超える数や＋、－などの記号を書く。 ・お金の数え方を知り、簡単な買い物をする。 ・色、形、大きさの弁別ができる。 ・パターンブロックを使って、様々な図形に親しむ。		算数 生活単元学習
理 科				
生 活				
音 楽		・当該学年に準ずる。	当該学年の内容を扱う 場合には、「当該学年に 準ずる。」と記載する。	音楽 交流学級で学習
図画工作		・好きなものを自由に描く。 ・簡単なおもちゃを作る。 ・身近な物の型押しをする。		図画工作 一部交流学級で 学習
家 庭				
体 育		・当該学年に準ずる。		体育 交流学級で学習
外国語				
特別の教科 道徳		・気持ちのよいあいさつをする。 ・みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。 ・相手のことを思いやり、親切にする。		特別の教科 道徳
外国語活動		・当該学年に準ずる。	6 区分 27 項目の中 から、それぞれ必要とする 項目を選定し、それらを 相互に関連付け、具体的 に指導内容を設定する。	外国語活動 交流学級で学習
総合的な学習の時間 (名称：○○○○○)		・当該学年に準ずる。		総合的な学習の時間 交流学級で学習
特別活動	学級活動	・学級内の係の活動を ・お楽しみ会が楽しく できるよう話し合いをする。		学級活動
自立活動		・主として、「1 健康の保持」「3 人間関係の形成」 「6 コミュニケーション」を重点的に指導する。		自立活動

特別支援学校の内容を扱う場合は、各段階を参考に文章で記述する。

当該学年の内容を扱う場合には、「当該学年に準ずる。」と記載する。

6区分27項目の中から、それぞれ必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定する。

交流学級で学習している場合は、「交流学級で学習」「○学年は交流学級で学習」と記載する。
また、一部の時間のみ該当する場合には、「一部交流学級で学習」と記載する。

小学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）小学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

交流学級で学習している場合でも、特別支援学級担任が主な学習内容を児童の実態に合わせて記載する。

[〇〇〇立〇〇〇小学校]

《6年生》

学年別の主な 教育内容 各教科等	主な教育内容	
	6年	
生活（特）	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の右側や歩道をきちんと歩く。 ・持ち物や道具を決められた場所に整頓しておく。 ・生き物を探したり植物の観察をしたりして遊ぶ。 ・係の仕事や花壇の作業をし、生活に役立てる。 	生活単元学習
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・話を終わりまで聞いたり、分からないときは聞き返したりする。 ・平仮名、片仮名で書かれた語句を読む 	国語 生活単元学習
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年の内容に準ずる。 	教科によって全てを下学年の内容に替える場合は、「第〇学年に準ずる。」と記載する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な加法や減法を用いる場る。 ・今日の日付や曜日がわかり、読んだり書いたりする。 ・パターンブロックを使って、様々な図形に親しむ。 	
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年の内容に準ずる。 	理科
生 活		
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に準ずる。 	音楽 交流学級で学習
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな絵を描く。 ・簡単なおもちゃを作る。 ・貼り絵、折り紙、切り絵、粘土などの作品を介助されて作る。 	図画工作 一部交流学級で学習
家 庭		
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に準ずる。 	体育 交流学級で学習
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に準ずる。 	外国語 交流学級で学習
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよいあいさつをする ・みんなが使う物を大切にし、 ・相手のことを思いやり、親切 	特別の教科 道徳
外国語活動		
総合的な学習の時間 (名称：〇〇〇〇〇)	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年に準ずる。 	総合的な学習の時間 交流学級で学習
特別活動 学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級内の係の活動をする。 ・お楽しみ会を楽しくできるような話し合いをする。 	学級活動
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、「1 健康の保持」「3 人間関係の形成」「6 コミュニケーション」を重点的に指導する。 	自立活動

交流学級で学習している場合は、「交流学級で学習」「〇学年は交流学級で学習」と記載する。
また、一部の時間のみ該当する場合には、「一部交流学級で学習」と記載する。

中学校 記載例

特別支援学校（知的障がい）中学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

[〇〇〇立〇〇〇中学校]

【記載例】

学年別等の時数 各教科等		1 年	2 年	3 年
日常生活の指導		7 0	日常生活の指導と生活単元学習の時間の計 140 は、国 35、数 35、外 70 を減じて充てた時数。	
生活単元学習		7 0		
作業学習				1 0 5
教科別の指導	国 語	1 0 5	作業学習の時間 105 は、国 35、数 35、職 35 を減じて充てた時数。	7 0
	社 会	1 0 5		1 0 5
	数 学	1 0 5		1 0 5
	理 科	1 0 5		1 4 0
	音 楽	4 5		3 5
	美 術	4 5		3 5
	保健体育	1 0 5		1 0 5
	技術・家庭（1 年） 職業・家庭（3 年）	7 0		1
	外国語	3 5		1 4 0
特別の教科 道徳		3 5	特別の教科道徳の時間を設定して行うことを基本とする。	3 5
総合的な学習の時間 （名称：〇〇〇〇〇〇）		5 0		7 0
特別活動	学級活動	3 5		3 5
自立活動		3 5		3 5
合 計		1 0 1 5	自立活動の時間 35 は、社 35 から。少なくとも 35 時間は設定することが望ましい。 自立活動の時間 35 は、社 35 から。少なくとも 35 時間は設定することが望ましい。	1 0 1 5
備 考		1：3 年の職業・家庭は、作業学習の中で行う。		

この記載例では、1 年生が一部交流学級で「技術・家庭」を行い、3 年生は特別支援学校の教科「職業・家庭」を合わせた指導の「作業学習」の中で行う。

中学校記載例

特別支援学校（知的障がい）中学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

[〇〇〇立〇〇〇中学校]

【記載例】における各教科等の記載例

《1年生》

教育課程	指導内容の分類 (内容上の区分)		指導の形態 (指導上の区分)	
	各教科	国語	日常生活の指導	各教科等を 合わせた 指導
		社会	生活単元学習	
		数学		
		理科		
		音楽		
		美術		
		保健体育		
		技術・家庭		
		外国語		
	特別の教科 道徳		特別の教科 道徳	
	総合的な学習の時間		総合的な学習の時間	
	特別活動	学級活動	学級活動	特別活動
自立活動		自立活動		

・学校行事、生徒会活動は、交流学級の一員として参加する。

【各教科等を合わせた指導の関連教科・領域】

- ・日常生活の指導…国語、外国語
- ・生活単元学習…国語、数学、外国語

「各教科等を合わせた指導」について、関連する教科等を文章で記載する。

中学校記載例

特別支援学校（知的障がい）中学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

[〇〇〇立〇〇〇中学校]

《3年生》

指導内容の分類 (内容上の区分)		指導の形態 (指導上の区分)	
教育課程	各教科	作業学習	各教科等を合わせた指導
	国語	国語	教科別の指導
	社会	社会	
	数学	数学	
	理科	理科	
	音楽	音楽	
	美術	美術	
	保健体育	保健体育	
	職業・家庭	外国語	
	外国語		
	特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	
	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	
	特別活動 学級活動	学級活動 特別活動	
	自立活動	自立活動	

・学校行事、生徒会活動は、交流学級の一員として参加する。

【各教科等を合わせた指導の関連教科・領域】

・作業学習…国語、数学、職業・家庭

届出書作成の際には、1ページに2学年分を記載するなど、必要に応じて工夫する。

中学校記載例

特別支援学校（知的障がい）中学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

【記載例】における概要記載例 《1年生》

交流学級で学習している場合でも、特別支援学級担任 [中学校] が主な学習内容を生徒の実態に合わせて記載する。

学年別の主な 教育内容 各教科等		主な教育内容		・指導上の区分 ・留意事項
		1 年		
国 語		・ 作文、感想文を書く。 ・ 教科書の音読。 ・ 俳句作り。 ・ 基本的な漢字の習得。		国語 日常生活の指導 生活単元学習
社 会		・ 社会のしくみと暮らしの関係について。 ・ 日本や世界の地理、歴史について。		社会
数 学		・ 四則計算。 ・ 小数、分数の計算。 ・ 生活に計算を応用。		数学 生活単元学習
理 科		・ 植物や動物の観察。 ・ 宇宙や天体について。 ・ 科学的実験の観察。		
音 楽		・ 当該学年に準ずる。		音楽 交流学級で学習
美 術		・ 当該学年に準ずる。		美術 交流学級で学習
保健体育		・ 当該学年に準ずる。		保健体育 交流学級で学習
技術・家庭		・ 当該学年に準ずる。		技術・家庭 一部交流学級で 学習
外国語		・ アルファベット。 ・ 英語の挨拶、曜日等。 ・ 簡単な単語の読み等。		外国語 日常生活の指導 生活単元学習
特別の教科 道徳		・ 決まりや約束を守り、節制して生活をする。 ・ 基本的生活習慣を身に付ける。 ・ 友達と協力して、仲間と生活する。		特別の教科 道徳
総合的な学習の時間 (名称：○○○○○)		・ 学校農園活動を通して学習をする。		総合的な 学習の時間
特別活動	学級活動	・ 学級内の係活動を行う。 ・ 自分の進路について考える。		学級活動
自立活動		・ 主として、「2 心理的な安定」「3 人間関係の形成」「6 コミュニケーション」を重点的に指導する。		自立活動

交流学級で学習している場合は、「交流学級で学習」「○学年は交流学級で学習」と記載する。
また、一部の時間のみ該当する場合には、「一部交流学級で学習」と記載する。

中学校記載例

特別支援学校（知的障がい）中学部の学習指導要領を参考にした例。検討の手順 で編成した場合。

交流学級で学習している場合でも、特別支援学級担任が主な学習内容を生徒の実態に合わせて記載する。

[〇〇〇立〇〇〇中学校]

《3年生》

学年別の主な 教育内容 各教科等		主な教育内容		・指導上の区分 ・留意事項
		3 年		
国 語		・ 一部を 2 年生の内容に替えて取り扱う。 ・ 基本的な漢字の習得。 ・ 俳句作り。		国語 作業学習
社 会		・ 第 2 学年の内容に準ずる。		社会
数 学		・ 四則計算。 ・ 小数、分数の計算。 ・ 生活に計算を応用。		数学 作業学習
理 科		・ 第 2 学年の内容に準ずる。		理科
音 楽		・ 当該学年に準ずる。		音楽 交流学級で学習
美 術		・ 当該学年に準ずる。		美術 交流学級で学習
保健体育		・ 当該学年に準ずる。		保健体育 交流学級で学習
職業・家庭		・ 木材加工制作。 ・ コンピュータの操作。 ・ ティッシュボックス、刺し子布巾制作。 ・ 調理実習。		作業学習
外国語		・ 英語の挨拶、曜日等。 ・ 簡単な単語の読み等。		外国語
特別の教科 道徳		・ 決まりや約束を守り、節度ある生活をする。 ・ 基本的生活習慣を身に付ける。 ・ 友達と協力して、仲間と協力して。		特別の教科 道徳
総合的な学習の時間 (名称：〇〇〇〇〇)		・ 当該学年に準ずる。		総合的な 学習の時間 交流学級で学習
特別 活動	学級活動	・ 学級内の係活動等。 ・ 自分の進路について考える。		学級活動
自立活動		・ 主として、「2 心理的な安定」「3 人間関係の形成」 「6 コミュニケーション」を重点的に指導する。		自立活動

交流学級で学習している場合は、「交流学級で学習」「〇学年は交流学級で学習」と記載する。
また、一部の時間のみ該当する場合には、「一部交流学級で学習」と記載する。

原則として、交流学級で学ぶ時間は、週の授業時数の半分以上にならないように設定する。

(3) 交流学級の学習活動への参加

[〇〇〇立〇〇〇小学校]

学年別の 年間時数		3 年	6 年
各教科等		設定しない教科の欄は斜線を引く。	設定しているが、当該特別支援学級で行う場合は、空欄にする。
国 語			
社 会			
算 数			
理 科			
生 活			
音 楽		6 0	5 0
図画工作		2 5	1 5
家 庭			
体 育		1 0 5	9 0
外国語			7 0
特別の教科 道徳			
外国語活動		3 5	
総合的な学習の時間		7 0	7 0
特別活動	学級活動		
備 考		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、児童会活動、クラブ活動、朝の会、帰りの会、給食の時間は交流学級の一員として参加する。 ・児童の実態に応じた交流を進め、交流先の担当者との連絡を密にする。 	

学校行事、朝の会、帰りの会、集会活動など交流学級の一員として参加させている場合は、備考欄に上記のように記載する。

[〇〇〇立〇〇〇中学校]

学年別の 年間時数		1 年	3 年
各教科等		設定しているが、当該特別支援学級で行う場合は、空欄にする。	
国 語			
社 会			
数 学			
理 科			
音 楽		4 5	3 5
美 術		4 5	3 5
保健体育		1 0 5	1 0 5
技術・家庭（職業・家庭）		4 0	
外国語			
特別の教科 道徳			
総合的な学習の時間			7 0
特別活動	学級活動		
備 考		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、生徒会活動は、交流学級の一員として参加する。 ・生徒の実態に応じた交流を進め、交流先の担当者との連携を密にする。 	

(特別支援学級用)

【記載例】

〇〇〇〇〇第〇〇〇号
令和〇〇年〇月〇〇日

〇〇〇 教育委員会教育長 殿

※市町村教育委員会
の定める日

小
〇〇〇立〇〇〇 学校 校長 〇〇 〇〇 印
中 (公印省略)

特別支援学級における特別の教育課程実施報告書 どちらでも可

本校の特別支援学級 〇〇〇学級（障がい種）にかかる令和〇〇年度の教育課程の実施状況を下記
のとおり報告します。

※当該学校で定めた名称を記入する。

記

教育課程の編成と実施に対する成果と課題

※届出書に対応し、成果と課題を記載する。

ア 教育内容の編成について

※記入上の観点

- 1 教育内容が児童生徒の障がいの種類、発達の段階等に照らして適切であったか。
- 2 各教科等間の指導内容相互の関連付けが適切であったか。
- 3 各教科等を合わせた指導が、児童生徒の興味・関心に応じた内容であったか。

イ 指導計画の作成と実施について

※記入上の観点

- 1 週間日課表の組み方で不都合なところがなかったか。
- 2 各教科等の週当たり時数が児童生徒の実態に照らして適切であったか。
- 3 年間、あるいは月間の指導計画を展開する上で不都合なことがなかったか。

ウ 交流学級の学習活動への参加について

※記入上の観点

- 1 交流学級における学習活動へ定期的に参加させた場合、教科や時数が適切であったか。
- 2 交流学級との連携・連絡等は適切であったか。
- 3 参加させたことによる成果や児童生徒の変容、あるいは問題等がなかったか。
- 4 参加させなかった場合、その理由など。

[付]学級編制の状況について

※記入上の観点

- 1 入級した児童生徒の障がいの種類の違いによる問題点はなかったか。
- 2 入級している児童生徒の指導全般についての成果と課題。
- 3 在籍児童生徒の少人数化等に対応し、工夫した点など。

(通級による指導用)

【記載例】

通級による指導に係る特別の教育課程の届出書
及び通級による指導終了報告書は、当該市町村
の様式に従うものとする。

〇〇〇〇〇第〇〇〇号
令和〇〇年〇月〇〇日

市町村教育委員会
の定める日

〇〇〇 教育委員会教育長 殿

小
〇〇〇立〇〇〇 学校 校長 〇〇 〇〇 印
中 (在籍校)(公印省略)

通級による指導に係る特別の教育課程の届出書 どちらでも可

通級による指導に係る特別の教育課程を下記のとおり編成したので、お届けします。

記

該当する障がい名を で囲むが、記載
の仕方はこれに限らない。

学 年	第 2 学年	性 別		生年月日	成〇〇年〇〇月〇〇日										
ふりがな 氏 名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇 〇 〇 〇	通級指導 校	〇〇〇立〇〇〇 中 校	通級指導教室											
障がい種別	言語障がい 自閉症・情緒障がい 弱視 難聴 学習障がい A D H D 肢体不自由等														
指導時間	週 2 回 2 単位時間														
在籍校分	各 教 科										特別の 教 科 道 徳	外国語 活 動	総合的 な学習 の時間	特別 活動	計
	教科 等	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭 科	外国語					
	週 時数	9		5		3	2	2		3		1		1	26
指導 内 容	教科 等	自立活動													
	週 時数	2													
	【指導内容等】 1 指導方針 ・ 指示を素直に受け入れ学習に取り組むことができるよう、心理の安定を図る指導を行う。 2 指導内容 ・ ソーシャルスキルトレーニングを通して自分の言動を振り返り、周囲の人たちと友好的に関わることができるようにする。 ・ 短時間であっても学習課題をやり遂げて認められる経験を積み重ねることで、集中して学習に取り組むことができるようにする。														
通級指導校分の「指導内容等」の欄は、当該通級指導校と協議し、記載すること。															

(通級による指導用)

【記載例】

通級による指導に係る特別の教育課程の届出書
及び通級による指導終了報告書は、当該市町村
の様式に従うものとする。

〇〇〇〇〇第〇〇〇号
令和〇〇年〇月〇〇日

市町村教育委員会
の定める日

〇〇〇 教育委員会教育長 殿

小
〇〇〇立〇〇〇 学校 校長 〇〇 〇〇 印
中 (在籍校)(公印省略)

通級による指導終了報告書

どちらでも可

下記の児童生徒について、通級による指導が終了したので報告します。

記

ふりがな 児童生徒氏名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇 〇 〇 〇	性 別	○
		障がい種別	A D H D
生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	学 年	第 2 学年
ふりがな 保護者氏名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇 〇 〇 〇		
通級指導校名	〇〇〇立〇〇〇〇学校 通級指導教室		
終了年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		

「通級による指導終了報告書」を「通級による指導に係る特別の教育課程の実施報告書」とする。

指導要録の記載について

「総合所見及び指導上参考となる諸事項」において、通級による指導を受けている児童生徒については、通級による指導を受けた学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。(文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室)